

OK【差替済】平成29年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT29330 実感！体感！サンゴ礁生物の不思議



開催日：7月16日(日)

実施機関：琉球大学

(実施場所) (瀬底研究施設)

実施代表者：竹村明洋

(所属・職名) (理学部・教授)

受講生：10名(うち 小:2人、中:4人、高:4人)

関連URL：[http://www.u-ryukyu.ac.jp/top\\_news/hirameki2017072701/](http://www.u-ryukyu.ac.jp/top_news/hirameki2017072701/)

【実施内容】

今回のひらめき☆ときめきサイエンスは、サンゴ礁で繁栄している多様な生物の共生関係や競争関係を、座学で解説するとともに実際に船でフィールドにでて観察することで理解してもらうことを目的として企画された。

1. プログラム進行

- 10:00 集合(瀬底研究施設)、受付・オリエンテーション
- 10:30-12:00 講義(造礁サンゴ(山城担当)・魚(竹村担当))
- 12:00-13:30 昼食・着替え
- 13:30-16:00 サンゴ礁観察(参加者を2グループに分けて海と陸からの観察を交互に行った)
- 海からの観察:チャーターした船に受講生と保護者等に乗せ、サンゴ礁が形成されている場所でのシュノーケリングを行った。安全対策のため、ライフジャケットの装着義務に加えて二人以上の安全監視員を乗船させた(竹村担当)。
  - 陸からの観察:瀬底研究施設で飼育されているサンゴ礁生物を説明するとともに、海岸でみられる生物を観察した(酒井・守田・山城担当)。
- 16:00-16:30 シャワーと着替え
- 16:30-17:15 質問タイムおよび感想文
- 17:15-17:30 修了式・「未来博士号」授与式
- 17:30 解散



瀬底研究施設で飼育されているサンゴ礁生物を説明する様子



講義の様子

## 2. 工夫した点

本プログラムを実施するにあたり、プログラム前日(7月15日)に開催された琉球大学オープンキャンパスでも広報を実施して参加者を募った。結果として事前登録者と前日受付者をあわせて10名の受講生があった。また、中高生に加えて保護者等の参加も認め、サンゴ礁生物の理解を深めてもらう工夫をした。

## 3. 事務局との協力体制

下記のように協力体制を敷き、実施にあたった。

(総合企画戦略部研究推進課研究推進係):連絡調整、事務手続の統括、広報活動

(理学部事務):予算管理、物品購入等の検収処理手続き、広報活動、保険手続きの手配

## 4. 安全配慮

サンゴ礁生物を海から観察するときには船舶を利用した。乗船の際にはライフジャケットの装着を義務づけるとともに、経験豊富な学生を受講生5名につき2名の割合で乗船させて安全の管理を行った。同時に行う磯観察ではAEDを携帯するようにし、緊急時にも対応できるようにした。

## 5. 今後の発展性、課題

沖縄県は、世界有数のサンゴ礁及びサンゴ礁生物の生息地として知られているにも関わらず、そこで暮らす子供達の多くは、驚くほど海との接点を持たない。今回のプログラムを通して、自身の生活する沖縄諸島の海が美しいだけでは無く、生物多様性に優れたフィールドであることを頭と体で理解する機会を提供できたと考えている。今後も、より多くの子供達に沖縄の生態系に関心を持ってもらえるよう継続的に取組を行いたい。

### 【実施分担者】

酒井一彦(熱帯生物圏研究センター・教授)

山城秀之(熱帯生物圏研究センター・教授)

守田昌哉(熱帯生物圏研究センター・准教授)

【実施協力者】  6  名

【事務担当者】 國場 真由美 総合企画戦略部研究推進課

玉城 歩 理学部生物系事務室